

令和6年度 第3回 藤沢市立大鋸小学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2024年8月22日(木) 10時~11時30分

場 所 藤沢市立藤ヶ岡中学校 2階 図書館

|      |   |
|------|---|
| 出席委員 | 堀河 俊介(会長・保護者)<br>山崎 晋治(副会長・大鋸小学校校長)<br>田中 舞(保護者)<br>大谷 美津子(村岡地区青少年育成協力会大鋸児童館長)<br>織部 朋子(大鋸地区社体協)<br>渋谷 幸江(藤沢東部地区主任児童委員)<br>平石 美和(村岡地区主任児童委員)<br>金澤 健二(おはようボランティア)<br>饗庭 寛子(村岡公民館長)<br>近藤 千鶴(大鋸小学校教頭) <p style="text-align: right;">以上10名</p>  |
| 次第   | ※藤ヶ岡中学校の学校運営協議会と合同開催<br>1 開 会<br>2 会長挨拶<br>3 議 題<br>(1) 不登校児童生徒の現状と支援について<br>・藤ヶ岡中学校の様子<br>・大鋸小学校の様子<br>・学校運営協議会としてできそうな取り組みについて<br>(2) 藤ヶ岡中学校と大鋸小学校で協働できそうな取り組みについて<br>(3) その他<br>4 その他  |
| 協議内容 | 意見等<br>*3(1) 不登校児童生徒の現状と支援について<br>・10年ほど前から様子が変わってきたように感じている。不登校の理由は多様化し、理由がわからないケースが多い。社会情勢の変化もあり、インターネットを介して友達とも会うことができ、家の中がつまらない場所ではなくなっている。そんな中、家庭訪問しても顔が見られない子や、人が怒られている様子を見て怖くなり、学校にいけなくなる子も増えている。漠然とした不安が高く、対応もそれぞれの子に合ったものが必要となり、学校の先生だけでは難しいのが現状。いろいろな支援が必要だと感じている。<br>・我が子は家でずっとインターネットをしていた。保護者として学校に毎朝欠席の連絡をしなければならないのが嫌だった。SC から、食べて寝られているならいいと言われて安心した。親を追い込むようなことは避けたい。本人は、ネット関係の人とつながり、学ぶことも多かったそう。また、理由はないと言っていた。理由は?と聞いてくる人を安心させるために理由を言うが、主な理由がないこともある。そばにいて、つながっていること |

が大事なのかかもしれない。

- ・「こうあってもらいたい」と思う大人の像が違うことが、子どもにとってギャップになっている部分もあるのかかもしれない。自由ほど難しいものはない。中学校と小学校で、不登校の子どもたちにどうなってほしいのかということ共有できないか。キーワードのようなものはあるか。
- ・私(中学校)は、社会に出たときに自分で生活できればよいと思っている。急に学校へ来れるようになる子もいるし、エネルギーがたまれば来れる子もいる。無理やり学校に来させることは考えていない。
- ・私(小学校)は、どんな場所においても人と関われる力をつけてほしいと願っている。家庭の中で、孤独に引きこもることは避けたい。体験を通して学んでほしい。
- ・これまでの対話から、不登校の理由にこだわらないこと、学校に来させるため、教室に戻すための支援だけではないことを確認したい。別室にいる子と個別に会話することもとても大事である。一方、小学校も中学校も人手不足の問題がある。中学校は、①稼業中の学習140h ②県から週3回4h 不登校支援をする人への予算がついたが、担う人が不足している。デリケートな子たちのため、地域にも支援してもらえたらと思う。例えば、地域の受け皿として、先生でもない、親でもない大人と関われる場所(きなこカリーの活動)や、多様な生き方を認める場所なども増やせたらよいと思う。
- ・会社でも、lon1(ワンオンワン)ミーティングのコミュニケーションによって得られる満足度が高いことがわかってきた。個別に会話することはとても大事だと感じている。
- ・現在高校3年になる我が子は、小3から中3まで不登校だった。学校に行くときだけ連絡するという方法にさせてもらっていた。親としても、欠席は「今日も行けなかった」と落ち込むもの。逆に、「行けます」という連絡は、親としても気持ちが上向きになる。家で過ごす親子は孤立しがちなため、不登校の子をもつ家庭同士がつながる機会があればよかった。親同士の交流もできるとよい。
- ・別室で過ごす子同士が仲良くなる様子も見られる。自分だけではないという安心につながるのではないかと感じた。これは、保護者の方も同様なのではないかと気付いた。おしゃべり広場など、市の取り組みとは別に、身近な機会があってもいいと思った。
- ・御所見中学校では、元保護者(元PTA)が、不登校家庭に対する話をしてくれたことがあった。学校が会場だと来にくい人もいるため、地域の場所を借りて行ったこともある。他校の保護者でも来てよい、そんな取り組みは、すぐできるかもしれない。
- ・児童館に、学校にも家にもいたくないという子がふらっと来たら受け入れてほしいと市からも連絡がきている。学校のある時間でも過ごすことができるため、小中学校にそんな子がいれば声をかけてほしい。
- ・学校として、朝の欠席連絡は、生存確認の意味で必要だが、「基本毎日入れてくださいね」ではない方法を確認できるといいと感じた。
- ・毎週木曜日の午後、フリースクールまなびこから、大鋸市民の家へ場所をかえ、「てとて」が、居場所を運営している。午前中、大鋸小で過ごした子や藤ヶ岡中の子も合流して、様々な遊びをしている場に参加したことがある。

- ・いろいろな人がいろいろな場所で支援しようとしていることがとてもよいと感じた。保護者が抱え込んでしまわないように、どんなときも受け入れてくれる学校体制や、信頼関係を築いていくことが大切だと思った。
- ・答えがすぐに出るような簡単な問題ではなく、個に応じた特効薬があるものでもないが、現状を共有し、様々な視点で話し合えた成果は大きいと感じる。今後もそれぞれの協議会で、継続して支援の方法を考えていきたい。

**\*3(2) 藤ヶ岡中学校と大鋸小学校で協働できそうな取り組みについて**

- ・防災について等、話し合いたかったが、時間の都合で、協議せず。

次回開催日程 2024年 11月 26日(火)9時30分～

場所 大鋸小学校 2階指導室